令和2年 第3回

武蔵野市教育委員会定例会

令和2年3月3日

於 教育委員会室

武蔵野市教育委員会

令和2年第3回武蔵野市教育委員会定例会

○令和2年3月3日（火曜日）

○出席委員（5名）

教育長	竹内道則	教育長職務代理者	清水健一
委員	山本ふみこ	委員	渡邊一衛
委員	小出正彦		

○事務局出席者

教育部長	福島文昭	教育企画課長	渡邊克利
指導課長	秋山美栄子	統括指導主事	小澤泰斗
教育支援課長	牛込秀明	生涯学習課長	長坂征
生涯学習課 スポーツ課 武蔵野ふるさと 歴史館担当課長	栗原一浩	生涯学習課 スポーツ課 武蔵野ふるさと 歴史館副参事	小山佳幸
図書館長	鎌田浩康		

○日 程

1. 開 会
2. 事務局報告
3. 議 案
議案第9号 武蔵野市学校施設整備基本計画について
4. 協議事項
 - (1) 武蔵野市教育委員会教育長の職務代理者の指名について
 - (2) 第二期武蔵野市生涯学習計画について
5. 報告事項
 - (1) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る教育委員会の対応について
 - (2) 教育部業務状況報告について
 - (3) 令和2年第1回市議会補正予算について

- (4) 令和2年度教育費予算(案)について
- (5) 武蔵野市立第三中学校体育館棟2階の天井ボードの一部落下を踏まえた今後の対応について
- (6) 令和元年度教育委員会児童生徒表彰受賞者について
- (7) 武蔵野市立総合体育館老朽化調査の結果及び今後の工事について
- (8) 第2次武蔵野市子ども読書活動推進計画策定委員会の設置について
- (9) 武蔵野市子どもの読書状況調査(速報)について

6. その他

◎開会の辞

○竹内教育長 ただいまから、令和2年第3回教育委員会定例会を開会いたします。

初めに、会議録署名委員の指名を行います。

本日の会議録署名委員は、武蔵野市教育委員会会議規則第36条の規定により、議長において清水委員、山本委員、私、竹内、以上3名を指名いたします。

次に、傍聴についてお諮りいたします。

定員の範囲内で傍聴の申込みがあった場合、本日の傍聴を許可することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、傍聴を許可いたします。

これより議事に入ります。

本日の議事のうち、協議事項(1)武蔵野市教育委員会教育長職務代理者の指名については、人事に関する案件でございますので、最後に非公開で行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは非公開といたします。

◎事務局報告

○竹内教育長 これより議事に入ります。

それでは事務局報告に入ります。

教育部長からお願いします。

○福島教育部長 後ほど教育企画課長のほうから新型コロナウイルス感染症の拡大防止への対応についてはご説明をさせていただくところでございますが、子どもたち一人一人の居場所、それから各家庭でそれぞれの状況がございますので、それらを踏まえた上でしっかりと対応してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それから、庁内でも会議の円滑な進行というようなこととされておりますので、説明においては簡潔にさせていただく部分があるかと思いますが、ご了承いただければと思

います。

それでは私のほうから前回の教育委員会定例会以降の状況について報告をさせていただきます。

まず、第2回市議会定例会が始まりまして、2月21日の市長の施政方針を皮切りに、3月26日までの会期で行われております。教育部に関する主な質疑についてご紹介させていただきます。

まずスクールソーシャルワーカーの3名増員という予算案を出させていただいておりますが、この経過についてお尋ねがあり、市長より、虐待やいじめ、不登校などを早期に発見し解決しなければならないと考え、全中学校区に配置することとしたと、これによってスクールソーシャルワーカーが頻繁に学校に訪問できるようになり、きめ細かな相談、支援を行うことが期待できるとお答えをいたしました。

次に、教育相談におけるICTの活用については、不登校支援や特別支援教育においてICTの活用は有効と認識しており、来年度チャレンジルームに電子黒板とタブレット、中学校の特別支援教室と小中学校の特別支援学級にもタブレットを導入したいとお答えをいたしました。

次に、学校を改築するまでの修繕についてお尋ねがあり、全ての学校で改築が終わるまでの間、施設を適切な状態に保っていく必要があります、劣化による不具合が軽微な段階から予防的に修繕等を確実に実施することが重要であること。そのためには、技術職員の資質の向上と育成を図るとともに、点検を含めた体制の強化を図るといふふうにお答えをいたしました。

次に、市立学校を選ばない生徒が増えていることについてお尋ねがあり、市立中学校への進学率が下がっているのは事実である。できるだけ市立中学校に進学していただきたいと考えるが、その要因は保護者の価値観の多様化や高校無償化の社会情勢の変化、中高一貫校の増加など様々な要因が複合的に影響していると考えたとお答えをいたしました。

次に、学校の改築に当たり、各学校の関係者との意思疎通をしっかりと進め、地域コミュニティの重層化につなげてほしいとのご意見があり、個別の学校改築では改築懇談会（仮称）を設置して意見を伺う予定であり、学校、保護者、関係者、地域住民など、様々な方のご意見を大切に、丁寧にコミュニケーションを取りながら検討することが重要であるとお答えをいたしました。

次に、学校現場における人的配置を充実してほしいとご意見があり、教育の質の向上には、教員の指導力の充実が重要であり、予算や人材の面から課題もあるが、教員の持ち時間を減らすことで、教材研究の時間が確保でき、授業の質が向上すると考えており、市が独自に配置する学習指導講師を増員したいとお答えをいたしました。

次に、学校改築するまでの改修に対する予算、人員についてのお尋ねには、全ての学校で改築するまでの間、施設を適切な状態に保っていく必要があり、現在の施設課と教育企画課の人員について、より一層技術職員の資質の向上と育成を図るとともに、点検も含めた体制の強化を図ること、改修に関する予算は、施設保全整備に関する予算、施設保全整備以外の改修に関する予算、緊急対応など維持補修工事に関する予算、それぞれ計上しているとお答えをいたしました。

次に、27日、28日に一般質問が行われ、14名の議員より通告があり、教育長からは9名の議員に対して答弁を行っております。そのうちの一部をご紹介します。

まず給食食育振興財団の今後の事業展開として、夏休みの学童クラブでの昼食提供やチャレンジルームでの給食食育についてどう考えるかのお尋ねがあり、老朽化している調理施設のメンテナンス工事に夏休み期間を使う必要があることなどから、夏休みの学童クラブでの昼食提供は困難であること、チャレンジルームでは昨年10月に給食を提供し好評であったため、来年度以降も実施したいとお答えをしたいとお答えをいたしました。

次に、子どもの学校への送迎についてお尋ねがあり、小学校の知的障害及び肢体不自由の特別支援学級に通う児童などに登下校のスクールバスを運行しているが、登下校は第一義的には保護者が責任を負うべき事項であると認識しており、送迎が困難なケースについてはファミリーサポートセンターの利用などの対応が考えられるとお答えをいたしました。

次にフリースクールに通う不登校児童生徒への経済的支援についてお尋ねがあり、自主的かつ広域的に活動するフリースクールの特性を踏まえると、国や都の動向を注視して対応することが望ましいが、様々なフリースクール、学習塾、私立学校などがある中で、どのように公平性を担保して対応するかが課題であるとお答えをいたしました。

次に、学校の今後の保全改修を支えるための体制についてのお尋ねには、今後は点検調査の一部に外部の力を生かすことを視野に入れつつ、本市の技術職員の人材確保を図り、点検体制の充実を図るとお答えをいたしました。

次に、第三中学校体育館棟2階の天井ボードの一部落下に関し、今後の点検調査についてお尋ねがあり、現在調査中の原因を含め、今後の対応策を3月5日の文教委員会でご報告する予定だが、ご指摘の第三中学校のほかの部位やその他の学校も含め、施設の老朽化が進んでいるので、これまでの施設保全整備の精度を今まで以上に向上させ、点検調査に基づく施設保全整備を実施する必要がある都お答えをいたしました。

また、今後の情報の提供、発信方法についてのお尋ねには、今回のような場合の情報提供では速報性と正確性が重要であり、今回の件を踏まえ、今後は初期対応やその後の対応など必要に応じて適時適切に情報を提供してまいりたいとお答えをいたしました。

議会に関しては以上でございます。

次に、教育委員会に関することについてご報告いたします。

まず第4回武蔵野市子ども図書館文芸賞の表彰式が2月23日、午後2時から、中央図書館で受賞者16名を含む77名が参加し行われました。当日は、教育長の挨拶、表彰状授与から始まり、受賞者による作品の朗読と、それぞれの部門ごとに審査員講評が行われました。今回の子ども図書館文芸賞をきっかけに、子どもたちが日頃感じていること、思い描いたことを様々な方法で表現し、国語力の向上や豊かな表現能力の育成につながるものと期待をしております。

2月25日には、シルバー人材センターの加藤会長をはじめ、6名の方がお見えになり、雑巾1,800枚を寄贈していただきました。会員の手作りや、会員から寄附されたタオルを手芸小物班で雑巾に仕立てたもので、市立小学校で使用してほしいと、平成24年度から毎年寄贈していただいているものです。寄贈された雑巾は小学校に配布し、児童の清掃活動などに使わせていただく予定でございます。

次に、市内の学校の状況でございます。2月29日には小学校9校の吹奏楽団が参加する武蔵野市ジュニアバンドジョイントコンサート、及び3月15日には小学校3校と中学校1校、聖徳学園中学校・高等学校の皆様が参加する武蔵野市青少年コーラスジョイントコンサートが開催される予定でしたが、どちらも新型コロナウイルスの感染防止のため中止といたしました。出場される皆様には発表会当日に向けて準備を進めてこられたことと思いますが、大変残念に思っておいでのことと推察されるところでございます。

次に、3月2日は都立高校の合格発表日でした。中学校3年生の進路の状況につきましては、来月ご報告をさせていただきます。

また、小学校6年生の進学状況ですが、市立中学校への進学率は平均で67.2%、前年

度が61.9%、国公立、私立中学校への進学率は32.2%、前年度が35.7%でございます。一部残りの部分については海外転出者、都立特別支援学校、インターナショナルスクールなどがございます。

以上で事務局報告を終わります。

○竹内教育長 ただいまの報告に、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 今、雑巾をたくさんいただいて学校に配布という報告があったんですけども、昨年、大雨が降ったときに桜野小学校の上部に雨水がたまって一気に、それが落ちて、学校中が水浸しになったことがありました。子どもたちに1人2枚ずつ雑巾を渡し、全員ですっとそれを収めることができたという話を金子校長先生に伺ったのです。実は、それまでいただいた500枚の雑巾は一体どこで活躍するのかと書いていたけれども、本当にありがたかったということを改めて感謝したんですというご報告を受けました。こうした実績についてもお伝えできたらうれしいと思ったのです。いつどんなときに、それが活躍するか分からない。

だから、どこか奥のほうにしまっちゃったりしないことが大切なのかなと思って、この報告を受けていました。

以上です。

○竹内教育長 教育部長。

○福島教育部長 確かに頂いて実際にどういう形で使っているか、作っている方々にもちよっのご報告できるようなことも考えたいと思います。

○竹内教育長 結構ふだん使いもしていますよ、学校では。子どもたちがお礼のお手紙を、書いたりもしているんです。学校によって違うのかもしれないですけども活用はされているようです。

○清水教育長職務代理者 今、教育長がおっしゃったように、最近もやっていると思うんですけども、高学年の児童会の生徒がこんなことで使っています、ありがとうございますという感謝の手紙を届けたりしていますので、気持ちは伝わっていると思います。

○竹内教育長 ほか、よろしいですか。

◎議案第9号 武蔵野市学校施設整備基本計画について

○竹内教育長 それでは、議案に入ります。

議案第9号 武蔵野市学校施設整備基本計画についてを議題といたします。

説明をお願いします。教育企画課長。

○渡邊教育企画課長 第9号についてご説明いたします。

計画の冊子と、当日配付の参考資料のほうをお配りいたしました。

計画案につきましては、前回の定例会で協議をいただいております。あわせて、策定委員会から報告をいただいたあと、関係団体にも説明をしてまいりましたので、まずそちらの状況をご説明したいと思います。参考資料のほうをご覧ください。

報告以降、PTA連絡協議会、開かれた学校づくり協議会代表者会、子どもプラン推進地域協議会、そして青少年問題協議会で報告をさせていただきました。

主な質疑、ご意見のところをご覧くださいと思います。

改築順序を決めるに当たっての劣化度調査の話であったり、コンクリートの圧縮強度、こういった専門的な話について、分かりにくいというご意見であったり、質問が多かったかと思います。

基本計画はいつ確定するんですかというご質問であったり、事業費の内訳、それから計画を見直しする時期の根拠についてのお尋ねもありました。あわせて、第三中学校体育館棟2階の天井ボードの一部落下の件も複数ご意見をいただいたところでございます。

計画の冊子を御覧いただきたいと思います。修正点を確認いただきたいと思います。ページをめくっていただいて、目次の最後、2枚目の裏でございますけれども、用語説明を掲載している用語については、アスタリスクの記号をつけていますという文言を加えております。

それから31ページでございます。図表18、第一小学校体育館棟のコンクリート圧縮強度の部分です。上の真ん中です。13.5N/mm²以上のところがバツになっておりましたけれども、これは説明を分かりやすくということでしたので、米印3番という形で追記をしております。前回の協議事項のときに伺った修正点は以上2点かかと思います。よろしく願いいたします。

○竹内教育長 ただいまの説明にご質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。

清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 拝見して非常に内容的にしっかりとしたものだと感じております。ずっと読んでいた中で、スケルトン・インフィルというのが出てくるんですけども、これはとてもいいなと思っています。ただ、これを実現していくに当たって、建物

の間取りを決めていったときに、教室とか特別教室とか管理棟の配列によってスケルトン・インフィルが生きにくい配列というのも生まれてくると思うんです。つまり、この自由度が活かされるような形での設計というのがスケルトン・インフィルを生かす上で非常に大切だなということを読んでいて感じましたので、ちょっとお伝えしておきます。

それからもう一点、8ページに主体的・対話的で深い学びということでアスタリスクがついているわけで、これを見ていったときに、76ページに出ているんですけども、②の子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりにと書いてあるんですけども、この先哲という言葉は、よく使われる言葉なんではないでしょうか。これはなじみが余りないと読み取って、もし分かりやすい表現を使うんだったら、そのほうが読んだ方は分かるのかなと思いました。

もう一点、24ページですけども、個別事項の普通教室の配置の一番上の行です。各学年がまとまった配置とすると書いてあって、これは基本的な考え方としてはとても大切なことだと思うんです。ただ、学校というのは、児童数、生徒数の増減によって、教室、学級数が変わってくるんですよ。そうすると、学級数の増減によってはまとまった配置ができない場合というのが結構出てくるんです。だから、ここの表現は各学年をまとまった配置を基本とすると書けば、これが基本なんだけれども、状況によってはそれが実現できない場合もあるねと、そういう読み取り方ができると思うので、「を基本」というのを「配置」の後に入れたらどうかなと思いました。

以上です。

○竹内教育長 指導課長。

○秋山指導課長 学習指導要領か中教審の答申か今資料を持っていないんですけども、この「先哲」という言葉については主体的・対話的で深い学びの特に対話的な学びの説明で文科省が使っている言葉だと思います。

○竹内教育長 教育企画課長。

○渡邊教育企画課長 3点目の普通教室の配置の件ですけども、清水委員、おっしゃった趣旨のとおりだと思いますので、この場で、その修正でよろしければ、修正の上議決をいただければと思います。

○竹内教育長 基本的にこの標準仕様は原則論なんだけれども、原則論の中に「原則として」と入れても大丈夫ですね。

○渡邊教育企画課長 大丈夫です。

○竹内教育長 では、そういうような感じで記述を変更することで対応したいと思います。
ほかにございませんか。

ちょっと確認したいんですけども、今日の参考資料で出された4団体への説明なんですけど、これを通して、例えば第三中学校の校舎のこととか構造躯体に言及する質問がありますね。このそれぞれの団体への説明を通して、説明をされたご担当の感触でもいいんですけど、この施設整備基本計画を想定していたものを変えるとか、そういう必要性があるようなものは出てきたんでしょうか。

教育企画課長。

○渡邊教育企画課長 そこまでは出てきていないのかなと考えております。あくまでも学校改築とメンテナンス、両方を2本立てでしっかり進めていくというご意見だったかなと思います。

○竹内教育長 前の委員会でも三中の天井ボードについては報告があって、基本的にはそういうことを踏まえた上で、保全改修をきちんとしていこうというところに課題としては捉えてきたところなので、同様な受け止めということではよろしいでしょうか。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 その説明会のときの雰囲気というのはどうだったのか聞かせていただきたい。否定的な方が多かったのかとか、その辺はどうだったのでしょうか。

○竹内教育長 教育企画課長。

○渡邊教育企画課長 様々なご意見がありました。特に劣化状況のところは分かりにくいというご意見は多かったかなと思います。

説明会では、この計画の冊子だけじゃなくて、パワーポイントで図も使いながらご説明をさせていただきました。今後もそういった場があるときは、なるべく丁寧にご説明していきたいなと思います。

総じて否定的なご意見は少なかったと思います。ただ、第三中学校の件がございましたので、そこへのご心配の声は多かったかなと思いますので、しっかりと手当てはしていかなければいけないと考えています。

○渡邊委員 躯体的な部分とその他の配管などの設備関係のところと分けてうまく説明されたんだと思うので、納得いただいていると感じました。どうもお疲れさまでした。

○竹内教育長 第三中学校のことについては、近くの方以外も気にされている方がいて、いろいろなご説明をしてきたところですし、今度、また議会にも詳細な原因とか、これ

からのことについてはご報告していく予定です。

では、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○竹内教育長 それでは、お諮りいたします。

議案第9号について採決に入りたいと思いますが、これに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 異議ないものと認め、採決に入ります。

議案第9号 武蔵野市学校施設整備基本計画について、本案を、先ほど修正点のご指摘がございますが、それを修正した上で事務局提案のとおり決することに賛成ということで、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○竹内教育長 それでは、本案は事務局提案のとおり決定させていただきます。

◎協議事項

○竹内教育長 次に協議事項に入ります。

協議事項(2)、第二期武蔵野市生涯学習計画についてを議題といたします。

説明をお願いします。生涯学習スポーツ課長。

○長坂生涯学習スポーツ課長 第二期武蔵野市生涯学習計画についてご説明いたします。

中間まとめからの主な変更点をご説明したいと思います。冊子のページ、51ページをお願いいたします。

パブリックコメントを令和元年12月8日から12月31日の間に行いました。配布場所、応募方法については記載のとおりでございます。

提出人数は10名の方から頂きました。市内8名、市外1名、不明が1名です。意見数につきましては68件のご意見をいただきました。

パブリックコメントの主な意見についてご説明いたします。

学びおくり賛同する意見が10名中6名の方からございました。例えば、ページ、53ページをご覧いただきたいと思っております。ナンバー15、16、17、18、19、20が賛同していただいているご意見でございます。対応については、ご意見を踏まえて着実に実施してまいりたいとしております。

「学びおくり」について賛同していただいたご意見が多い中、分かりにくいとするご

意見も1名の方からございました。21番なのですが、基本理念の「学びおくり」が理解できないですとか、「わたしたちがつくるまち」について長計、都市マスと同様にまちづくり全体に関わる位置づけがされているならともかく、生涯学習分野の個別計画で「わたしたちがつくるまち」という言葉を使用することに違和感があるなどというご意見をいただいております。

施設のより一層の充実を求める意見が複数人から寄せられました。例えば、4番ですとか、55ページの29番、57ページの43番といったところになります。例えば43番ですが、文化施設に関する検討について、公会堂は吉祥寺プレイスに、芸能劇場は三鷹北プレイスに変えるぐらいの建て直しをするべきではないかなどというご意見をいただいております。公会堂や芸能劇場といった文化施設の在り方につきまして、市民活動推進課が現在検討しているところです。引き続き生涯学習部局と文化施設所管部局が連携し、施設の適切な在り方について協議しますというお答えをしているところです。

また、基本方針1-2、ICTの活用による情報機会の提供の検討に賛同するご意見が複数寄せられました。例えば52ページの13番、平日の昼間に市内から離れている市民や子育て、介護等で身軽に動けない市民にとって時間と場所の制約は看過できない学びの障壁であると考えます。これを解消する意味で、ICTの活用による講座や施設の予約申込み、空き状況確認が必要だと思う、このようなご意見をいただいているところです。

また基本方針3-1、学んだ人がこれから学ぶ人のサポートをする仕組みの検討に賛同し、また具体的な提案をする意見が複数人から寄せられました。例えば57ページの47、48、49、50といったところがそういったご意見です。47番ですと、地域自由大学で学んだ人の社会活動の場所を創設してほしいですとか、48番ですと、学んだ人がこれから学ぶ人のサポートをする仕組みの検討について、学んだ人が簡単に先生になれる仕組みを検討してほしい、登録制のメンター制度など。その際、武蔵野プレイスやコミセンの多目的室等を会場として予約できる仕組みも併せて整えてほしい。また、教える人の質を担保するために、少額でよいから対価を支払う仕組みを入れてほしい。教える人の質の担保ができれば参加者が増え、学びおくりあいが進む。また少額の対価は副業にもつながり、市民の価値創造に大いに寄与するのではないかなどというご意見をいただいております。

また12月9日の教育委員会定例会のご指摘を受けまして、14ページをご覧ください。SDGsに関する記述につきまして修正を行いました。委員のほうから17のゴール、

169のターゲットではなくてもっと詳細に書くべきだというご指摘をいただきましたので、17の国際目標、169のターゲット、232の指標と修正をかけております。

またパブリックコメントを策定委員会で議論させていただきまして、29ページをお願いいたします。29ページの新しいテーマの学びの機会の提供について、意味が通じやすくなるように全面的に修正を行いました。意味としては大きくは変わってございません。また、ページ、31ページをご覧ください。1番目の◆ですが、リカレント教育における行政の役割の検討について、現役世代のキャリアアップや就労に関する学びの機会の記述の記載を追加いたしました。あわせて、これに合うようにタイトルを変更いたしました。元は新しい時代のリカレント教育の検討というタイトルでしたが、リカレント教育における行政の役割の検討に修正しております。

また、同じページで、子育てと仕事をつなぐ学びの機会の提供について、これまで子育てと仕事の両方に役立つテーマを取り扱うと記載しておりましたが、これに加えて、子育てと仕事を両立する人が一般的に講座、イベントに参加する時間を確保することが難しい状況、この対策として、託児等のサポートについて言及しております。併せてタイトルを変更いたしました。元のタイトルは子育てにも仕事にも役立つ学びの機会の提供としておりましたが、子育てと仕事をつなぐ学びの機会の提供に修正しております。

ご説明は以上です。

○竹内教育長 ただいまの説明にご意見、ご質問がありましたら、お願いします。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 前の中間まとめと比べてとても美しくなったという印象で、随分変わって読みやすくなった、非常によかったと思いました。

気づいたところを幾つか申し上げたいのですが、先ほど14ページでSDGsの説明を入れていただきました。12ページのグラフ、ほかのグラフも同じですが、黒字と白抜きの種類あるのです。これは黒字のほうが読みやすい。特にオレンジで白抜きだと、白が目立たないと感じました。

とてもよかったのは、その隣に、前はエクセルのような形で色分けと文字で説明があったのですが、この図は棒グラフの横に説明があって、これはとてもいいですね。こういう発想は素晴らしく、非常にいい説明の仕方をしている。その説明のところ黒字を使っているので、これは合わせたほうが良いと思います。

円グラフについて20ページ、これも緑のところか白抜きで出ていますが、この真ん中

のグラフ、2-13は外に引き出し線で書いていますので、1番目も3番目も同じように引き出し線にしたほうが説明が分かりやすくなると思います。もう一回全体的に見ていただくとよいと思います。

28ページの見開きで施設体系、27から28、非常に大きく出していただいて、これは分かりやすくなったと思います。前は文字だけで固まっていたのですが、それ以降の関連性も分かりやすくなっていると思いました。

パブリックコメントについて、10人の市民の方から、非常に細かい指摘があって、それに対して真摯に回答されているということがよく分かりました。これにより、修正された部分が随分あるのです。パブリックコメントをうまく反映して対応された点に非常に感心いたしました。

最後に、小口の活用というのかな、テキスト等で例えば目次のところに色をつけて、それに対応するように小口のところに同じ色を全部入れるとか、少なくとも章が変わるページの小口のところに色をつけていくと、非常に引きやすくなると思います。ぜひ検討していただけるとマニュアルとしてもとしても使いやすい、引きやすい冊子になるかなと思いました。

公表して、市民の方の手元に届いたときに、また使っていただける、そういう資料にしていだけるといいと思っております。

以上です。

○竹内教育長 生涯学習スポーツ課長。

○長坂生涯学習スポーツ課長 今ご指摘いただいた点、可能な範囲で修正していきたいと思えます。ありがとうございます。

○竹内教育長 山本委員、どうぞ。

○山本委員 私も驚きました。一生懸命読んでしまいました。

それで、特にパブリックコメントのところを、読んだのですけれども、本当に意識が高く鋭いと思って感心したんです。

特に私が感じたところは54ページのナンバー25のところ、サイエンスフェスタのように、こういうイベントだけではなくてというご意見なんですけれども、私もこのことは考えてきました。それで、常設のスペースのようなこともできたら本当にすてきだろうな、学びの機会があちこちに開かれているというようなことがとても大切なんじゃないかなと思っています。それは、時々、特に中学校の理科の先生方、技術の先生方とお

話しするのですけれども、もう一歩進んだ学びの機会が常に開かれているよというようなことです。

それから、55ページのナンバー27の「ラーニング・フォー・オール」の日本語訳をと
というような鋭い視点でのご意見ですね。これは読んでいて、なるほどそうだなというふうにも思ったんですけれども、この言葉の意味にしろ、今回、造語としてここに加えた
「学びおくり」の理解がなかなか難しい部分もあって、多くの皆さんがこの言葉の前に立ち止まっている感じでしょう。でも私、やはり、これは難しいですねとか、訳が分からないですねとか、ラーニング・フォー・オールの本当の意味ってどうですかねというような議論みたいなことが、こういうふういきっちりできていくということがとても重要で、武蔵野市らしいことだなと思ったんです。

市民側についてもいろいろな議論があって、まだ理解が進んでいないところもある、私自身も、自分としての理解はもう一歩だなと反省するところもあるんですけれども、その言葉を手がかりに、ずっと話合いを続けていったり、それこそ、学び続けていくことによって見えてくるものがあるということ、市民の皆さんとも共有したいと思いました、心から。

それで、「学びおくり」についてのご意見がたくさん出ていること、もう本当に頼もしく面白いことだと考えているんですね。新しい言葉って難しいですよ、受け入れていただくのに。でも、こういう言葉をここに置いたということが一つのチャレンジなんだということも思いました。これから少し展開させていく余地があると思います。

それから、渡邊先生が言われましたけれども、SDGsのことがちゃんとここに置かれたこと、とてもよかったと思って、このこともあわせて、市民の皆さんと学習と議論を続けていける機会を作りたいなと思っています。

以上です。

○竹内教育長 清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 とてもいいなと思います。色合いもとても優しい色合いで、意識したのかなと思いました。

せっかくここまでやったんで、もうちょっとよくしたいなと思って見ていたんですけれども、8ページに市内の生涯学習に関係する関連施設が丸数字で出ているんですね。これを見て、私を感じたのは、オレンジ色とピンク色みたいな丸があるのですが、この色の違いが見づらいなと。どうでしょうか。

例えば生涯学習施設と劇場・ホール・文化集会施設と、中学校ですよね。知っている
と分かるんですけれども、知らない人が見たときに、割合にオレンジとピンクが同じよ
うな色に見えるなと感じました。

もう一点、28ページなんですけれども、とても見やすくなったんですが、一方で、①
②③というところの文字が潰れているんです。これは字体を変えて、潰れないような字
体にしたほうがもっと見やすいのかなと思います。

以上です。

○竹内教育長 生涯学習スポーツ課長。

○長坂生涯学習スポーツ課長 今ご指摘いただいた部分につきまして、見やすいように変
更を加えていきたいと思えます。ありがとうございます。

○竹内教育長 私もこの8ページの記号というか、数字については色覚のことが気になっ
ていて、例えば形を変えるとか、そういうことも含めて検討していただきたいと思いま
す。確かに集まっていると見づらいということはあると思えますので、それはお願いし
ます。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 学校は小さい屋根のついた建物のマークとかでもいいのかなと思ったりして。
やはり学校がこういうふうにあるという事は、特別なことなので。

○竹内教育長 生涯学習スポーツ課長。

○長坂生涯学習スポーツ課長 今のご指摘をいただいて、確認させていただきたいと思
います。ありがとうございます。

○竹内教育長 よろしいですか。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 先ほど、山本委員がラーニング・フォー・オールの話をしたのですが、全
ての方々にだけじゃなくて、一生涯を通じての縦方向の結びつきもそれに含まれてい
るのかなという感じはしたのです。特にそのような説明は書いていないのですけれど。

そのように拡大解釈して、ラーニング・フォー・オールを進めていかれるといいかな
と。「みんな」ということもそうだし、「自分自身の一生涯を通じて」と、ライフサイ
クルに合わせた学びというのも含めた用語ですと拡大していくと、よりよくなると思
いますので、よろしくをお願いします。

○山本委員 それは本当に大事なことで、もちろん個人のものでもあるんだけど、そ

れだけにしないというのが武蔵野市の掲げている理想なんだということですので、この議論は結構貴重だなと思ったんです。

○竹内教育長 ご説明があったのかもないですけども、質問を私からもいいでしょうか。

31ページのリカレント教育における行政の役割の検討というのが、パブリックコメントを踏まえて変えたということだったと思うんですが、変えた趣旨、行政の役割の検討というのが入った趣旨を教えてくださいたいのと、これは意見です。その前の29ページで、これからの主な施策の3番目のところでSTEAM教育について触れられているんですが、私のこの文脈の中での理解は、武蔵野の地域自由大学は五大学をそれぞれ受講できるじゃないですか。そういう中で、文理融合であるとか、それぞれの大学の特色を生かして受けられるという意味でいくとSTEAM教育や、あるいは文理融合とか、若干議会でも最近リベラルアーツについてというところのご質問をいただいたときに少し言おうかなと思ったんですが、五大学との関係があるような気がしているんですね。その関係を、生涯学習振興事業団と文化事業団の統合との関連が記述されているように受け止めるんですが、五大学は全体として地域自由大学としての文理全体が視野に置けるものだ、そういう趣旨もあるんじゃないかなと思うので、考え方を教えてください。

生涯学習スポーツ課長。

○長坂生涯学習スポーツ課長 29ページの後段のところに両事業団の統合の記載がございますが、スポーツ施設ですとか生涯学習機能を持った現在の生涯学習振興事業団と文化事業団が統合することによって、新たな価値観ですとか事業形態とかいうものが生まれることを期待しておりますので、この両事業団が統合することによって分野を融合する視点を持った事業ができるんじゃないかということを期待しているところでございます。

また、五大学につきましても様々得意なところがあるかと思しますので、そこが連携することによって、分野を融合する事業というものもこれからも期待できるんじゃないかと考えております。

○竹内教育長 最初のところの質問は、行政の役割の検討が入った趣旨というのは。

○長坂生涯学習スポーツ課長 こちらは、もともとの記載が、もともとの書かれていた記述と意味合いには大きくは変わっていないところですが、現役世代のキャリアアップや就労のところも視野に入れて大きく捉えて考えていったほうがいいんじゃないかというご意見があって、修正を入れたところでございます。

○竹内教育長 ここも私の理解としては、リカレント教育については結構民間が行ってい

る、あるいは企業の活動の中で行われていることもあるので、そういう重なる部分があるから行政がどういう部分を担うべきなのかという議論が必要ではないかというふうに受け止めたんですけれども、そういう趣旨も入るといえることでしょうか。

生涯学習スポーツ課長。

○長坂生涯学習スポーツ課長 おっしゃるとおりでございます。

○竹内教育長 山本委員、どうぞ。

○山本委員 一つお願いするのを忘れていました。

いろいろなところで推進と検討という言葉が使い分けてあります。検討があつて、それから推進すると思うので、そういうふうにも考えて言葉が選ばれて置かれているのかどうか、最後に1回確認してください。推進でいいのか、検討としているのはなぜかというところのチェックと、さまざまな意味での生活困窮者とか、外国人の方たちの学びということについては、本当に慎重に、していかなければいけないことで、まだ分からない事態もたくさん待ち受けていると思うので、こういうことはやはり検討して推進するという言葉を選んだほうがいいと思ったりして。

違和感があるというわけではないんですけれども、慎重に最後のチェックをしていただきたいと思いました。

○竹内教育長 生涯学習スポーツ課長。

○長坂生涯学習スポーツ課長 ご指摘を受けまして、よくチェックを行って、また修正をかけるべきところはかけていきたいと思います。

○山本委員 ありがとうございます。

○竹内教育長 ほかはよろしいでしょうか。

それでは協議事項（2）については、幾つか委員の中からご意見、ご指摘をいただきましたので、それに沿った修正を行った上で、第二武蔵野市生涯学習計画については了承したいと思います。次回は議案という扱いになると思いますが、このように進めさせていきたいしたいと思います。

◎報告事項

○竹内教育長 続きまして、報告事項に入ります。

報告事項（1）新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る教育委員会の対応についてです。説明をお願いします。

○渡邊教育企画課長 報告事項（１）についてご報告いたします。資料がたくさんございます。最初の説明ペーパーのほかに、別紙１から６まで、６は本日お配りいたしました。１、２、３、４、５、６ございます。全て時系列に並べております。

先日の臨時会でご報告している内容に、さらに加筆修正したものに下線を引いております。今日はそこを中心にご説明していきたいと思っております。

２月２７日の政府の対策本部で総理の発言を踏まえて、学校に対して一斉休業が要請されました。それへの対応については、本日から休業するというところで進んでおります。

１枚目の裏面をご覧くださいと思います。市のほうでも対策本部での議論が重ねられてまいりました。そこには、教育長も本部員として入っております。

２番の市立小中学校の対応のところですか。臨時休業、保護者への周知は既にご案内のとおりです。

卒業式でございますが、卒業式は実施する。ただし、参列者を制限し、式の時間を短縮した形とする。２番目が、来賓は招待しない。教育委員会からも参列はしない。３番目、参加していただくのは、卒業生、教職員、卒業生の保護者。保護者につきましては各家庭２名以内。必要に応じて在校生の代表。４点目、風邪などの症状や基礎疾患のある方などにはご遠慮いただくことをあらかじめお伝えする。５番目、練習をしなくても可能な内容とする。例えば、卒業証書授与、国歌斉唱、校歌斉唱などでございます。

卒業式の取扱いは以上のようにさせていただきたいと考えております。

その他でございますけれども、臨時休業中の地域子ども館事業でございます。あそべえにつきましては、３日より閉館。早朝校庭開放も含めて３日より閉館でございます。

学童クラブは学校の臨時休業期間中、臨時開所をいたします。時間は午前８時から午後６時まで、延長育成は午後７時までといたします。

ここにつきましては別紙６もご覧くださいと思います。昨日付けで保護者の方々にご案内した内容でございます。

臨時の開所期間は記載のとおりでございます。育成時間は３年生までと、４年生から６年生で分けております。違いは延長育成の有無になります。

対象としましては、市内に住所を有する小学校１年生から６年生のうち、休業期間中、ご家庭で保護者などの対応が難しい児童でございます。既に申請を始めておりまして、夜間の窓口も設けております。

その他のところでございますが、昼食としてお弁当、飲物の持参をお願いしております。

す。おやつを提供は安全衛生の観点、それからアレルギー対応が困難なため、実施いたしません。

最初のペーパーに戻っていただきまして、1枚目の裏、3番目でございます。教育委員会の所管施設、図書館であったり、プレイスであったり、市民会館などがございますけれども、こちらは市全体の方針に合わせまして、昨日から17日まで臨時休館をしております。

説明は以上になります。

○竹内教育長 私からも補足しておきたいと思います。

教育委員の皆さんはご案内のとおり2月28日に、私の知る限りは、今まで夜間に臨時会を行った記憶はないんですけれども、夜間に臨時会を開催してお越しいただきました。それで、この28日以前の内容についてはご承認いただいたわけなんですけれども、この資料の中でも、28日に教育委員会臨時会開催というのを記載しておいたほうがいいですね。

ということを確認しておきたいということと、それからこれは子ども家庭部のことなんですけど、別紙6で学童の緊急特別措置として学童を行うということがありますが、これは趣旨としては、今までに入会していた学童の方も含めて、保護者とかの対応が難しい児童に限って特例的に対応するということですので、通常の学童を学年を広げて行うという趣旨ではないということが、記書きの上書いてありますので、その上での実施であると聞いております。

その上でご質問、ご意見ありましたらお願いします。

学校の休校については教育委員会の権限で行うわけなので、今まで、これも私たちが経験していない初めての事柄で、いろいろと発表されてから、1日、国の発表よりも猶予を私たちは置いたわけなんですけれども、各学校においては、その猶予の中で、土日も含めていろいろと子どもたちの休み中の、休業中の過ごし方とか課題についても準備をされてきたようです。今後もいろいろと状況を見ながら、適時適切な対応をしていきたいと思っておりますので、ご相談しながら進めていきたいと思っております。よろしくをお願いします。

これについてはよろしいでしょうか。

それではこの報告事項につきましては了承されたものといたします。

次に報告事項(2)教育部業務状況報告についてです。説明をお願いします。

○渡邊教育企画課長 まず教育企画課をご覧ください。

教育企画課は事項が5点ございますけれども、すべて年度内に完了する予定です。大

きな動きがあったのは、1番、2番の計画策定が完了したということ、それから2ページでございますけれども、5番目の給食調理場でございます。工事について議会の議決をいただきまして、3月1日に着工済みでございます。予定どおりに進んでいるところでございます。

以上です。

○秋山指導課長 指導課でございます。

初めに2ページの学力及び体力向上に向けた取組です。取組状況については、1月24日に第一小学校と大野田小学校における英語教育をテーマとした研究発表会の実施のほか、記載のとおりでございます。

成果としては、研究発表会への参加を小学校全教員の悉皆研修としたことにより、両校の研究内容を市内各学校で共有できたことでございます。今後は次年度の研究校の指定や市講師の任用事務を滞りなく進めてまいりたいと思っております。

次に、道徳教育といじめ等の未然防止に向けた取組です。取組状況は記載のとおりです。

成果と課題ですが、道徳については、考え、議論する道徳となるように、各学校において道徳教育推進教師を中心に組織的に授業改善を進めていくことが引き続きの課題となります。

いじめの防止については2月はふれあい月間でしたので、実施したアンケート調査等を活用し、早期発見、早期解決に引き続き努めてまいります。

次にICTを活用した教育の推進です。取組状況は記載のとおりです。

成果と課題ですが、授業において教員がICT機器を活用することは日常的になってきております。児童生徒がタブレットパソコンを操作する機会を増やしていくことが、これも引き続きでございますが、課題だと考えております。

教育推進室による学校教育の支援についてです。教育アドバイザーによる学校支援、地域コーディネーターの活躍、教育情報の発信の3点に関わる取組状況は記載のとおりでございます。特に12月は、経験の浅い臨時的任用教員が担任する学級への教育アドバイザーによる支援を重点的に行いました。今後とも、若手教員や臨時的任用教員などに対し、教育アドバイザーによる授業観察や指導・助言を計画的に行い、授業力の向上を図ってまいります。

また地域コーディネーター間の情報共有を一層進め、活動の活性化を図るとともに、

学校教育への協力者を増やすよう努めてまいります。

次に、教員の多忙化解消と健康増進に向けた取組です。取組状況ですが、12月のいわゆる時間外勤務が100時間を超えた9名の教員に対し、産業医との面談を設定しました。1月も100時間超えの教員は6名おり、うち4名は12月と同じ方でした。産業医との面談の結果、特に大きな異状は認められませんでした。在校時間の縮減に向けた働きかけを引き続き行ってまいります。

また小学校担任の持ち時数軽減のために市講師を配置したり、部活動指導員を全中学校に配置したりするため、市報で募集する等、任用に向けた準備を進めています。今後とも会計年度任用職員として4月1日から任用するために遺漏なく手続を進めるよう学校に働きかけてまいります。

最後に新学習指導要領の全面実施に向けた対応と、武蔵野市民科の試行です。

まず小学校英語についてですが、小学校英語教育推進アドバイザーによる巡回指導126回を行うとともに、先ほど申し上げた研究発表などを悉皆研修の場と位置づけたことで、小学校教員の英語指導力の向上を図ることができたと考えております。次年度もアドバイザーによる巡回指導を活用し、指導力の向上を図ってまいります。

武蔵野市民科につきましては、1月の検討委員会で先進的に取り組んでいる学校の事例を紹介するとともに、中学校区対象で、各学校のカリキュラム案について情報交換を行いました。今後は4月に各学校の保護者会で武蔵野市民科について説明するプレゼンの資料を作成するとともに、学校に対して次年度取り組むことの周知を図ってまいります。

以上です。

○牛込教育支援課長 教育支援課、12番、特別支援教育の推進です。①番は中学校の特別支援教室です。開設に向けて各校への説明などを着実に進めております。②番が小学校の特別支援教室です。これは千川小学校を新たな拠点校とし、あさがお教室という名称を決定しました。こちらも4月に向けて準備を進めています。③番が、交流共同学習支援員の配置についてです。こちらも関係校に説明をして、2月に支援員を募集し、4月に向けて準備を進めております。

13番が不登校対策の総合的推進です。①番は、スクールソーシャルワーカーについては来年度の増員に向けて各校に希望調査をするなどして配置の準備を進めております。②番が不登校児童生徒の多様な学び場の在り方報告書をまとめました。フリースクール

等の連携について、今後、手引を作成していく予定です。③番は、来年度に長期不登校生徒を対象とした新しい学びの場について、支援内容、運営方法についての検討を行っております。来年度前半の開設を目指して準備を進めております。

教育支援課は以上でございます。

○長坂生涯学習スポーツ課長 生涯学習スポーツ課です。

第二期生涯学習計画の策定ですが、先ほどご説明したとおりで、次回に議案として上程させていただきます。

15番ですが、多様な事業主体の活動支援と連携の促進ですが、状況説明に記載のとおりとなっております。共同講演会、共同教養講座、自由大学講座、全て終了しております。

8ページをお願いいたします。成果と課題のところ、来年度はオリンピック・パラリンピックの関係で寄附講座の開催が後期に集中している状況です。前期は東京女子大学のみとなっております。

16番、誰もがスポーツを楽しめる環境の整備です。①の地域スポーツ振興のところでございますが、各研修を実施いたしまして、多くの方にご参加いただきまして、実際研修生が座学で学んだことをすぐに現場で体験することができ、理解を深めることができました。

以上です。

○栗原生涯学習スポーツ課武蔵野ふるさと歴史館担当課長 9ページから10ページにかけて、武蔵野ふるさと歴史館の管理と運営でございます。

市天然記念物の成蹊学園のケヤキの木でございますが、現在、剪定作業を行っております。3月に報告書が出てまいりますので、成蹊学園とも情報共有をしながら今後進めてまいりたいと思っております。

また、旧関前村名主役宅は現在建物調査を行っておりますけれども、様々な聞き取り調査などを行いまして、これまで分かってこなかった歴史的な事実を解明し、調査してまいりたいと思っております。

また、中島飛行機関連の展示も終了いたしました。これまで日本でも研究されることのなかった兵士のメモ書き、ハンドライティングというものを初めて翻訳いたしますため、今後も研究を続けてまいりたいと考えております。

以上です。

○鎌田図書館長 図書館でございます。

18番、中央図書館の運営体制の検討につきましては、これまでの検討から市が図書館に関与する体制をとることや、中央図書館職員に求められる専門性の確保などを重要視して運営形態の選択をしてみたいと考えております。

19番、子どもの読書活動推進計画につきましては、また後ほどご報告をさせていただきます。

20番につきましては、図書館情報システムの更新に合わせ、情報アクセス環境の検討を進めております。

21番、市民サービス水準確保の検討につきましては、予約サービスについて何らかの方法を取る方向で検討を進めております。

22番につきましては、書庫の本の移動を進め、余裕の確保を進めるほか、蔵書分析について引き続き進めております。

説明は以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問、ご意見がありましたらお願いします。

山本委員、どうぞ。

○山本委員 各課の記述がそろっていて、とても読みやすかったので、ありがとうございます。とても読みやすく、いいなと思いました。ありがとうございます。

○竹内教育長 渡邊委員。

○渡邊委員 前回、清水委員がおっしゃっていただいて、全部丸番号で入れましょうというのを守っていただいたのですが、今度、最後、年度まとめがこれをベースにしてあるのですね。それに向けてなのですが、年度まとめのときには、令和元年度の課題は、黒ポツになっておりますが、ここにも番号をつけて、その対応を丸番号でしていただくと非常に分かりやすくなります。

その点で、一番よかったのが9ページのふるさと歴史館はそれを実践していただいて、①から⑤までの今年度の課題とそれからそれに対する状況説明と、それに対する成果と課題という形でまとめていただいているので、最終版でこういう形で全部をまとめていただけると、チェックがしやすくなると思いますので、その辺工夫していただけるといいと思いました。

○山本委員 それについての質問いいですか。

その番号は、成果と課題とつながっているということですよ。

○渡邊委員　そうです。だから初めの、令和元年度の課題の1番、2番、3番、4番が例えばあったとして、それに対してどういうことをやっているか、それからどういうことが課題になっているかというのを番号をつけていただくと。場合によっては、状況説明のところでも複数の番号がつく場合もあると思います。同じ番号が何回か出てくるのもいいだろうし、そういうまとめ方をしておいていただければ、PDCAのサイクルが回りやすくなるので、そういうことです。よろしいでしょうか。

○山本委員　分かりました。それがいいと思います。

○清水教育長職務代理者　2つあります。まず4ページなんですけれども、教育アドバイザーによる若手教員の授業観察という、状況説明のところなんですけれども、先ほど課長が経験の浅い教員という言い方をされたんですけども、今、結構若手じゃなくて入ってくる教員もあるので、やはり書き方としては、経験の浅いとか若手を中心とした教員としたほうがきちんと言えているのかなと感じました。

それからもう一点は6ページなんですけれども、上のほうの③の交流共同学習支援員という支援員なんですけれども、これは具体的に期待されていることとか、それから配置の状況とかいうところを詳しく説明していただければと思います。

以上です。

○竹内教育長　教育支援課長。

○牛込教育支援課長　6ページの一番上の③番ですね。交流共同学習支援員につきましては、これについては第三期学校教育計画にも掲げた施策なんですけど、ここでは、小学校の特別支援学級の児童と、通常の学級の児童の交流、また共同学習の機会を拡充していくと。そのための支援員を来年度から配置をする予定です。

今現在、小学校の特別支援学級を設置している第三小学校、大野田小学校、境南小学校にそれぞれ配置をする予定で準備を進めています。

○清水委員　週に何回という形で入るんですか。

○牛込教育支援課長　そうです。今のところは週3回程度ということで予定しております。

○清水教育長職務代理者　分かりました。

○竹内教育長　指導課長。

○秋山指導課長　先ほどご指摘いただいた点で、意味合いとしては経験の浅い、あるいは授業力がいま一つというところなんですけれども、この若手教員というのは、年齢の若手ということではなくて、清水委員、十分ご承知だと思いますが、採用後1年次、2年

次、3年次の教員をまとめて若手教員という言い方をしております——。東京都でも若手教員研修というのはそういう定義となっていますので、そのつもりでここは書かせていただいております。

○竹内教育長 そのほかはよろしいでしょうか。

それではこの報告事項につきましては了承されたものといたします。

次に報告事項(3)令和2年第1回市議会補正予算について、説明をお願いします。

○渡邊教育企画課長 それでは報告事項(3)についてご説明いたします。

今年度予算の最後の補正になります。歳入につきましては、国や東京都の補助金の金額が確定したものはそれに合わせていく。主にそれは事業費の増減によるものですが、歳出のほうも契約等によって固まった金額に応じて、余った予算を補正減していくというものが多いたるところでございます。

主立ったものを拾っていきます。まず1ページ目が歳入の補正です。今申し上げた国や東京都の補助金のほかに、下から3段目でございますけれども、調理場の整備の関係で市債を予定しておりましたけれども、事業費が減ったことによって市債の金額も減らしております。

2ページから歳出の補正になります。減額補正が多いところですが、すみません、通し番号を振っておけばよかったですね。まず2ページの上から4段目、教育企画課でございます。学校施設整備基金の積立金を当初予算よりも15億ほど積み増しております。今年度末の基金残高は、これで131億円になります。今後の改築に備えていくものになります。

それからその下、次の次です。教育企画課、小学校費、機器借上料、マイナス1,850万でございます。これは体育館の冷暖房設置でございます。リース期間が学校によって2学期から3学期ということではばらけた関係で、当初予算よりも実際に使った金額が少なかったことによる減でございます。

それからその下の1億5,300万円の減、小学校の校舎等改修でございますけれども、一部工事の入札不調がございまして、大きな金額の補正減になっております。

それから2ページの下から2段目、指導課、教育総務費の賃金でございますけれども、470万円の減。市講師の任用数が見込みを下回ったためでございます。

それから3ページでございます。3ページの一番上、指導課、教育総務費、電子計算機借上料でございますが、パソコンの供給不足等によって実際のリース期間が短くなっ

たことによる減でございます。260万円減でございます。

それから3ページの下から5段目でございます。教育支援課、学校給食費、新学校給食調理場の建設事業でございますが、これも事業費、それから前払金なんですけれども、事業者のほう希望しなかったということで9,260万円減額補正しております。

前払金はいずれ払うものでございますので、後年度負担になってまいります。それが4ページでございます。債務負担行為は、今年度ではなくて、来年度以降負担することが確定しているものでございますけれども、今の前払金の関係で、債務負担行為の限度額を増額補正しております。

補正予算の説明は以上になります。

○竹内教育長 ただいまの説明にご質問、ご意見がありましたらお願いします。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 2ページ目の、先ほどご説明があった校舎の改修のところ、入札不調の話があったのですが、それに対する今後の予定はどうなるのでしょうか。

○竹内教育長 教育企画課長。

○渡邊教育企画課長 今回の件は第三小学校給排水管工事が夏休みでなければできない大がかりな工事でした。それが入札で不調になりましたので、来年度予算案にも改めて計上し直しております。金額とか仕様を見直して、来年度こそはと考えております。

○渡邊委員 来年度はいけそうかどうかわからないのですが、やはりやっていただかないと困りますよね。

○渡邊教育企画課長 はい。

○渡邊委員 ぜひ進めていただきたいと思います。

○竹内教育長 ほか、よろしいでしょうか。

それでは、この報告事項につきましては了承されたものといたします。

次に報告事項(4)令和2年度教育費予算(案)についてです。説明をお願いします。

○渡邊教育企画課長 報告事項(4)についてご説明いたします。

令和2年度の当初予算案が議会のほうに上程されております。これから予算特別委員会等で審査していただくところでございますが、今回は教育費の部分についてご説明いたします。

まず資料の1枚目でございます。全体の概要が載っております。ここで押さえていただきたいのは、教育費内訳のところ、新しい科目が2つできております。小学校費、

中学校費、それぞれ学校建設費という科目を設置いたしました。これは学校改築に要するものでございます。

一番下の合計欄をご覧いただきたいと思います。平成31年度予算と比べて1億9,000万ほど減、パーセントで言いますと2%弱でございます。市全体の予算に占める割合としましては、12%ほどということで、民生費、総務費に次ぐ大きさになっております。

主な事業は裏面以降になります。こちらは予算参考資料のほうから抜粋しております。重要な施策の予算一覧でございます。表の左側、分類の欄に○と◎が書いてありますが、○はこれまであった事業を予算面で拡大・充実するもの、◎は新たに予算がつけられたものになります。こういったものを中心に拾っていきたいと思います。

まず教育企画課ですが、小中学校のテント増設でございます。夏の暑さ対策ということで、来年度増設してまいりたいと思います。

それからバスケットゴールの耐震工事も進めてまいります。

そして3つ目、学校改築事業でございますけれども、第一中学校、第五中学校の改築に向けて議論を始めていきます。

次に指導課でございますけれども、授業の質の向上と教員の働き方改革の推進として、市講師、学習指導補助員の配置、それから学習支援教室の実施を上げております。

その下は検討事項でございますけれども、中学校部活動指導員の配置・拡充と、部活動の在り方の検討。

その下は指導課と教育支援課の共管です。特別支援教育・不登校支援のICT環境整備でございます。両課の共管事業は次の3ページの一番上、新規事業でございますけれども、オリンピック・パラリンピックの観戦のために看護師の同行、バスの借り上げに要する費用を計上しております。教育支援課につきましては、不登校対策の総合的推進、それから先ほど出ました交流共同学習支援員の配置、これは新規事業になりますが、こういったものを予算として計上しております。

4ページは生涯学習スポーツ課になります。新規事業は2つ、スポーツ振興計画改定に向けた市民意識調査。計画の策定委員会は令和3年度になりますので、令和2年度はその準備になります。

それから、体験しよう！パラ水泳、これは新規事業でございますが、武蔵野温水プールでブラインド水泳、資格障害者向けの体験を実施する予定でございます。

私からの説明は以上です。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問、ご意見がありましたらお願いします。

清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 校長の気持ちになって考えて、ちょっとひっかかったのですが、小学校、中学校のテント増設というのは、運動会のときに、気温が上がって、日差しが強くなっているんで必要だなと思うんです。学校規模によっては、相当数のテントを入れないと、児童のところにテントが張れないと思う一方で、それを置く場所のことを考えなければならないのですが、どこの学校も大体クリアできるのでしょうか。

○竹内教育長 教育企画課長。

○渡邊教育企画課長 置き場所がやはり一番課題と思ひまして、今までは貸し借りをしてきたところなんですけれども、そういった状況も踏まえて必要な数を今回予算計上しております。一部貸し借りは残ると思うんですけれども。

その上で、各学校に置いていく方向で今調整中でございます。場合によってはなかなか置く場所がないというときには、ほかの学校とかを考えなければいけないのかなと思っております。

○清水教育長職務代理者 5月の最終土曜日あたりに結構集中して8校ぐらいが一緒にやるわけなんですけれども、そこがちょっとずれていると、貸し借りで融通が利くようにも思うんですけれども。ありがとうございます。

○竹内教育長 渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 1ページ目の図書館のところですが、増額になっているのですが、これまでとちょっと違うやり方になったのか、どういうところに図書館の費用を増やしたのか、お伺いします。

○竹内教育長 図書館長。

○鎌田図書館長 こちらは空調機の工事の関係でかなりの金額がついておりましたので、そちらの関係で増えておりますが、図書館の事業関係では大きな変更はございません。

○渡邊委員 図書館は中央でしょうか。

○鎌田図書館長 中央図書館です。

○渡邊委員 分かりました、ありがとうございます。

○竹内教育長 ほかに。

渡邊委員。

○渡邊委員 同じページの、特別支援学級費というのが、3,400万程度減になっているの

ですが、これは大丈夫なのでしょうか。

○牛込教育支援課長 中学校の特別支援の開設のために各6校で空調の設置とかパーティションの設置、そのような工事費を計上していたため令和元年度のほうが予算が多いということでございます。

○渡邊委員 分かりました。ありがとうございます。

○竹内教育長 それではこの報告事項につきましては了承されたものといたします。

次に報告事項(5)武蔵野市立第三中学校体育館棟2階の天井ボードの一部落下を踏まえた今後の対応について、説明をお願いします。

教育企画課長。

○渡邊教育企画課長 報告事項(5)についてご説明いたします。

今回につきまして、教育委員の皆様をはじめ、生徒、保護者、そして地域や学校関係者の方々にご心配をおかけしましたことを改めておわび申し上げます。

今回の件が発生してすぐ事案の概要、修繕工事についてご報告したところですが、この間、詳細な原因の調査と今後の対応について、検討を調整してまいりました。本日は現段階で考えられる原因と、今後の対応についてご説明いたします。

まず1番、原因とこれまでのメンテナンスの状況です。

文章を見ていただく前に、真ん中のイメージ図をご覧くださいと思います。

こちらは3階から2階にかけて配管や天井内の状況を整理したものです。まず配管の状況ですが、図の左側2本の管です。雑排水管と水管が上から下に通っております。それぞれの管は保温材で囲われています。3階から2階にかけて、3階床スラブ内を通る箇所では配管とスラブの間にすき間がありますので、耐火パテで埋めております。配管はさらに2階の天井内、2階ホール部分を通っております。

天井ボードの設置状況ですが、3階床スラブに天井下地材がつり下げられており、その天井下地材に天井ボードがとめられています。この様子は写真Bをご覧くださいと、格子状の天井下地材がスラブにつり下げられている様子が分かるかと思います。さらに下の写真Cをご覧くださいと、配管が天井下地材、青色の天井下地材ではさまれている様子が分かるかと思います。まずこういった配管等、天井ボードの設置状況を押さえていただいた上で、原因のほうをご説明いたします。

原因①ですが、イメージ図の丸数字と対応しています。3階の汚水縦配管に亀裂が生じた原因ですが、配管の状況を確認し、配管メーカーにもヒアリングを行い、さらに内

部でも検討したところ、配管内部に汚水が付着し酸化しやすい環境になって腐食が進行し、配管が薄くなり、そしてその箇所力が加わったためと考えられています。

②、そういった状況で、縦配管により排水していた4階プール女子トイレのフラッシュバルブが何らかの原因で戻りきらず、少量の水が流れていたと考えられます。このトイレはふだんは使用頻度が非常に低く、清掃の際にフラッシュバルブが戻りきらない事象が生じた可能性がございます。

③、①の亀裂から②の水が漏れ、3階配管の保温材内、それから保温材と耐火パテのすき間、それから3階スラブと配管のすき間、そして2階の天井裏部分の保温材と伝い、2階の天井裏内で配管と天井下地材が接している部分で水の流れが垂直方向から水平方向へ向きを変え、天井下地材を伝ったと考えられます。

この保温材が濡れている様子、それから保温材と天井下地材が直角に接している様子は◎のとおりです。保温材はこの黄色い部分になっております。濡れている部分が濃くなっている部分でございます。

④、そして伝った水は天井材である石膏ボード及び岩綿吸音板に浸透し、そして重くなり落下したものと考えられます。

次にこれまでのメンテナンスの状況ですが、施設の給排水管は、施設保全整備——これは施設課が実施するいわゆる劣化改良保全ですが、その保全部位でした。配管の寿命とされる30年を目安に更新を検討し、劣化状況により優先度が高いものを選択してきました。このように優先度が高いものとしてきた理由は、学校の工事が夏季休業中に限られること、人的リソース及び財政的な制約から実施できるものに限りがあったことが挙げられます。

そして第三中学校では、平成20年に校舎棟のトイレ系統の配管改修、平成21年に体育館棟のトイレ系統の配管改修を実施しましたが、プールトイレの配管は改修しておりませんでした。その理由は、使用頻度が非常に低かったことから劣化が進行していないと判断し、腐食の可能性を適切に把握していなかった点にあります。

次に今後の対応です。裏面をご覧ください。

今後の対応を考えるに当たっては、今回の件のように改修が未着手のものをどうするのか、そして、優先度の判断のベースとなる点検体制をどうするかが重要になってまいります。まず(1)の給排水管の更新をご覧ください。

建築後50年以下の施設の給排水管のうち——これは改築が当面ないという意味でござ

いますが、更新期に達しているけれども、未着手のものについては令和2年度に更新計画を定め、速やかに更新をまいります。

建築後50年超——これは改築期に近いものですが、その施設の給排水管につきましても、調査の上、更新すべきものがあれば改築を待たずに改修を実施まいります。

これらの調査や更新計画を定める際には、(3)のところの後ほどご説明しますが、専門性を有する事業者、有識者の知見も活用していきたいと思っております。

次に(2)雨漏りなどに対する適切なメンテナンスの実施です。今回の件は雨漏りではございませんが、本件と同様にメンテナンスが重要なものとして雨漏り、水漏れがありますので、現在対応中の主なものを表でまとめました。ここに挙げたものは既に修繕済みのものや修繕の予定が決まっているもの、それから配管等物理的に問題がないものも入っております。

雨漏りは台風や豪雨に伴うもので、修繕が完了してもある程度の期間経過を観察する必要がございます。そういったものを現在対応中として表にまとめております。こういった雨漏り、水漏れは防水等の劣化の兆候でございますので、速やかに原因究明を行い、防水シートの補修など適切なメンテナンスを実施いたします。ここでも、(3)の1点目、専門性を有する事業者、有識者の知見を活用してまいりたいと思っております。

(3)点検体制の強化、充実です。こういった調査等について、専門性を有する事業者、有識者の知見の活用を検討してまいります。そして、点検口を増やすなど、雨漏り、水漏れの兆候を見逃さないようにいたします。

さらに教育企画課の整備員を増員し、事後的なメンテナンスだけではなく、巡視等の日常的な点検体制も強化していきたいと思っております。また施設課による劣化改良保全に当たっては、施設課による修繕履歴だけではなく、教育企画課の修繕履歴、学校の巡視結果などを活用し、施設の状態を総合的に把握していきたいと思っております。

最後(4)ですが、今回の件は、施設保全整備における保全部位で生じたものでした。これは参考にある表のとおりでございますが、今後は、この保全整備を適切な実施に実施できるように施設課において保全改修計画を策定します。今はこういったいつ実施するといったプランがございません。また施設を適切に維持するために騒音など、学校の工事負担を考慮しつつですが、夏季休業中以外での工事も検討していかなければいけないと考えております。

説明は以上になります。

○竹内教育長 ただいまの説明にご質問、ご意見がありましたらお願いします。

清水委員。

○清水教育長職務代理者 まず1ページ目、これまでのメンテナンス状況の最後のポツですけれども、プールのトイレの配管改修を行ってこなかった理由は、使用頻度が非常に低かったことから劣化が進行していないと判断し、腐食の可能性を適切に把握していなかったことであるということですね。

使用頻度ということもあるのですが、やはり経年劣化というのがあると思うんです。それから、もう一方で使用頻度が低いからこそ劣化していくと、そういうこともあるんですね。だからこのところでもとても大切なのは、どこかに書いてあったんですけれども、専門家の方がしっかりと状況を把握して、早期に発見するという、これがとても大事なということを今回の件で感じたことです。

それから2ページ目ですけれども、非常に大切なことが書かれています。(3)の点検体制の強化・充実。これは3つポツがあるんですけれども、3つとも非常に大切だなと思って拝見しました。専門性を有する事業者や有識者の知見の活用、これはぜひお願いしたいなと思います。それから2つ目のポツの点検口を増設する等、雨漏り、水漏れの兆候を見逃さないようにすると。これは水漏れが多いから大変だとか、水漏れが少ないから大変ではないということではなくて、ちょっとした水漏れでも、見えていないが、実は大変なことになっていると。それから、水漏れがある場所と全然違うところから水が入ってきているということもあるので、そういうことをきちんと調べていくということは非常に大切だと思っています。そんなことを学校のほうにお伝えいただいて、水漏れの兆候を見逃さない。もしちょっとでもあったら報告を上げるという、そういう仕組みを徹底していただきたいと思います。

教育企画課の施設整備員を増員することについて、そういった案件がどんどん上がってくれば、当然人数が多いほうが対応しやすいわけですが、やはり基本というのは、学校がふだんよく見て、その見ている中で異常を発見するということだと思うんです。やはり早期発見が非常に大切なので、やはり学校のほうで校内巡視を通して、そういった兆候を早くつかみ、そして教育企画課のほうに連絡を上げてもらうことを、ぜひ大事にしてほしいということを学校にお伝えいただきたいと思います。

以上です。

○竹内教育長 ほか、いかがでしょうか。

渡邊委員、どうぞ。

○**渡邊委員** ちょうどこの事故が起きた直後にいろいろ意見が皆さんから出たと思いますが、先ほど清水先生がおっしゃった2ページの最後の(3)の1個目の専門性を有する事業者、有識者の知見、これが非常に大切す。やはりそのための技術も大分進んでいるところがあるので、そういう技術を持った事業者を選定して、穴を開けなくてもわかるような、診断もできるわけですから、その辺をきちんと精査して、そういう会社をお願いするなどの工夫をしていただけるといいと思いました。

○**竹内教育長** 山本委員、どうぞ。

○**山本委員** 専門性を有しない意見なんですけれども、やはり使用頻度が非常に低かったというところのことなんですけれども、そういう場所を作らないという方針も大事ですね。

以上です。

○**竹内教育長** ほか、よろしいでしょうか。

それではこの報告事項につきましては了承されたものといたします。

次に報告事項(6)令和元年度教育委員会児童生徒表彰受賞者についてです。説明をお願いします。教育企画課長。

○**渡邊教育企画課長** 報告事項(6)をご説明いたします。

3月7日に表彰式の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止をさせていただきました。

受賞者一覧はここに記載のとおり、全体で17件、17名の方でございます。昨年度は11名でございましたので、増えました。第3期の学校教育計画の柱である、自信を高め、意欲を育む教育というものもありますので、今回は学校のほうにも事前に幅広く推薦をお願いしたところですが、これだけ集まったところですが、表彰式が実施できずに少し残念なところがございます。

今後、賞状、記念品につきましては、学校を通してお配りしたいなと思います。ぜひ修了式などで取り上げていただきたいと思ひますし、3月31日発行のきょういく武蔵野でも1面で取り上げていきたいと思ひます。

それぞれの受賞内容が分かるようなパンフレットを今作ってお配りしようかなということも担当で考えております。

以上です。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問、ご意見がありましたらお願いします。

よろしいでしょうか。

それではこの報告事項につきましては了承されたものといたします。

次に報告事項（7）武蔵野市立総合体育館老朽化調査の結果及び今後の工事についてです。説明をお願いします。生涯学習スポーツ課長。

○長坂生涯学習スポーツ課長 総合体育館等老朽化調査等の結果及び今後の工事について、ご説明いたします。

総合体育館、温水プール棟、プール管理棟はいずれも築30年以上が経過し、老朽化が進んでおります。武蔵野市公共施設再編に関する基本的な考え方では、安全性や利便性など必要な改善を計画的に実施し、長寿命化を図りながら原則60年間を使用していくことから、劣化状況の調査を行いました。

調査方法ですが、構造躯体につきましては、コンクリートの圧縮強度試験、及び中性化深さの測定。数量は、総合体育館12、温水プール6となっております。

配管につきまして、エックス線調査、及び内視鏡調査。調査場所は同様となっております。

外壁につきましては、総合体育館西側コミュニティデッキ上部を打診調査を行ったところでは、

2番、総合体育館の調査結果等ですが、概要につきましては記載のとおりです。

調査結果ですが、構造躯体につきましてはコンクリートの圧縮強度は設計基準強度の210kgf/cmを上回っているため問題はございません。中性化の深さは0.6mmから42.2mmの幅でありました。鉄筋のかぶりの厚さは30から40mmを超えたのは12供試体、24か所中2か所で行いました。全体的にはほぼ健全な状況ではありますが、今後も良好な状態を保持するため、大規模工事の際に躯体の状況を確認、補修していく予定としております。

配管については一部老朽化が進んでいるところも見られますが、当面は使用が可能であるという調査結果となっております。

外壁タイルにつきましては、タイルの浮き率は1%程度であり、一部タイルにひび割れが認められた状況です。浮き率としては低い状態となっております。

3番の現状と課題ですが、今後は配管の全体的な改修を総合的に実施する必要があります。その際、配管は天井や壁を通っていることから、内装の改修も併せて行いたいと考えております。

外壁タイルにつきましては、平成30年度にコミュニティデッキ南側に浮きが生じたため、該当部分を撤去した経緯がございます。一部では劣化が進んでいる状況も考えられます。また竣工当初から使用している既存のエレベーターは老朽化しているため、大規模改修の際には改修を行いたいと考えており、その際はストレッチャーに対応する籠に更新したいと考えております。

続きまして、温水プール棟、プール管理棟の調査結果です。建物概要は記載のとおりでございます。

3ページをお願いいたします。調査結果でございますが、構造躯体につきましては、プール管理棟、温水プール棟については、設計基準強度を上回っているため問題はございません。

コンクリートの中性化の深さですが、記載のとおりとなっております。3、鉄筋のかぶり厚さを30mmから40mmを超えていたのは12か所中1か所ございました。こちらも全体的にほぼ健全な状態ではありますが、今後も良好な状態を保持するため、大規模工事の際に躯体の状態を確認、補修していきたいと考えております。

一部鉄筋の発錆及びコンクリートの剥離が見られた部分もございますので、こちらも大規模改修に合わせて補修を行っていききたいと考えております。

配管につきましても、当面使用は可能な状態であるという調査結果になっております。トップライト（可動式屋根）ですが、現在、北側、南側とも開閉運転ができない状態でございます。また、一部の屋根材が既存不適格の状態であるということもございます。

現状と課題ですが、温水プール棟及び管理棟を継続して使用するには、トップライトや内装の改修など、大規模な工事が必要となっております。また既存の管理棟は温水プールがなかった当時に屋外プール用として建てたため、動線、バリアフリー、換気などに課題がある状態でございます。

4番ですが、井水ポンプについて、昨年6月、屋外プールの井水ポンプについて不具合が生じました。そこを調査したところ、井戸本体も経年劣化により、使用することができない状態であり、ポンプの夏季プールから当面、上水を使用して運営を行っているところでございます。

4ページをお願いいたします。今後の方針ですが、総合体育館について、外壁タイルは剥離による落下を防止するため早めに改修に着手し、急を要さないが長期に休館を伴う大規模工事は令和3年度から基本計画の策定を開始いたしたいと考えております。温

水プールにつきましては、次期スポーツ振興計画において屋外プールと一体的に施設の在り方について検討していきたいと考えております。

総合体育館ですが、外壁タイルについては令和2年度に実施設計、令和3年度に工事を行いたいと考えております。その際、足場を組むため、シーリングや排煙窓の改修も併せて行いたいと考えております。第6期長期計画及びスポーツ振興計画一部改定に基づき、施設の長寿命化を目的とした大規模工事はオリンピック終了後に検討し、実施いたしたいと考えております。

想定しているのは、給排水管や電気設備の更新であり、全館休館を伴う工事となります。機能改善や利便性の向上を目的とした改修も同時に行いたく、その内容については次期スポーツ振興計画に則って検討していきたいと考えております。

また、スポーツ振興計画に向けた市民意識調査の中で体育施設に関する市民ニーズを調査するとともに、大規模工事の基本計画、基本設計を作成する過程において、市民意見の把握に努めていきたいと考えております。

想定スケジュールは記載のとおりとなっております。温水プール棟、プール管理棟につきまして、躯体、配管ともに深刻な劣化は見られませんが、継続的に使用するには先ほどの課題がございますので、大規模な工事が必要となってくると考えております。

このような状況から、次期スポーツ振興計画策定に合わせて、温水プール、屋外プールの在り方を検討していきたいと考えております。

説明は以上です。

○竹内教育長 ただいまの説明に質問、ご意見がありましたら、お願いします。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 3ページの最後の井水ポンプについてのところで、今、水道水を使っているということなのですが、井戸を修繕する予定はあるのですか。

○竹内教育長 生涯学習スポーツ課長。

○長坂生涯学習スポーツ課長 井戸を現状のところで改修するとなると、概算ですけれども約1億円以上かかる大規模な工事になると思います。今、上水を使っていて年間で四、五百万になります。割り返すと20年分です。工事をした場合、20年分上水で使用した分と同じ額になりますので、そこまでをかけて工事をするのかどうかというところも併せて検討していきたいと考えてございます。

当分の間は上水を使用して検討していきたいと考えております。

○竹内教育長 山本委員、どうぞ。

○山本委員 今、四中のプールが開放されていますよね。四中のプールというのは井水なんですか。

伺いたかったのは、四中のプールを開放しているということと総合体育館のプールのことというのは、どういうふうなつながりがあるのか教えていただけますか。

○長坂生涯学習スポーツ課長 今、四中を代替プールとして利用させていただいておりますが、現在、温水プールの改修工事を実施しています。1月から3月という間は四中は使っていない時期でしたので、温水プールの利用者の方のために代替プールとして利用させていただいているところです。四中プールは上水を利用しております。

○竹内教育長 よろしいですか。

それでは、この報告事項につきましては了承されたものといたします。

次に、報告事項（8）第2次武蔵野市子ども読書活動推進計画策定委員会の設置について、報告事項（9）武蔵野市子どもの読書状況調査（速報）については、関連する事項ですので、一括して取扱いと思いますが、異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○竹内教育長 それでは一括して取り扱います。説明をお願いします。図書館長。

○鎌田図書館長 それでは、第2次武蔵野市子ども読書活動推進計画策定に当たり策定委員会を設けましたので、ご報告をいたします。

計画名が、仮称ですが、第2次武蔵野市子ども読書活動推進計画でございます。

計画期間、関係計画との関係につきましては記載のとおりでございます。

主な課題として考えておりますのが、乳幼児に絵本との出会いや読み聞かせの体験ができるようにさらなる環境の整備、充実といった検討、それから学校での読書や調べ学習への取組をさらに充実するため必要な整備や人的配置の検討、読書の機会が減少する中高生へのアプローチ、ハンディキャップを持つ子どもたちへの読書活動支援、また関係機関との横断的な取組などと考えております。

裏面をお願いいたします。策定委員会方式で行うことといたしまして、構成は記載のとおりでございます。有識者の先生、小中学校の校長先生、PTAの代表、それから子育て中の方、公募委員、行政からは子どもを所管する部長、教育を所管する部長ということで、委員構成を考えております。

策定スケジュールにつきましては、6回程度開催いたしまして、11月頃、中間のまと

め、パブリックコメントを経て、来年3月までに策定の予定でございます。今月、第1回委員会を開催予定で準備をしておりましたが、コロナウイルス対策等もございまして、日程については今調整を考えているところでございます。

続きまして、子どもの読書状況調査（速報）でございます。まだ冊子版が出来上がっておりませんので、まず速報という形でご報告させていただきます。

対象は小学校3年生、5年生、中学2年生で行いました。それぞれ市立小中学校の各学年の1クラスを選んでいただき、調査を行いました。

少し特徴的なところをご報告いたします。

1番の10月、1か月に読んだ本の冊数ということで聞いたところ、小学校3年生につきましては平均17.1冊、5年生は8.2冊、中学2年生は3.3冊というような結果で、特に小学校3年生では25冊以上読むというお子さんが多かったというところでございます。

2番目の読書に対する貢献度というところでございます。小学校3年生、5年生につきましては、読書が好き、とても好き、どちらかといえば好きを合わせて8割を超えておりますが、中学校2年生では6割というような状況でございます。

少し飛びますが、6番、家庭での読書環境というところで、一番上のところで、家に子どもが読む本がたくさんあるという問いに対して、小学校3年生は7割近くですが、中学校2年生では48.6と、50%を切っているようなところでございます。

3番目の小学校入学前、家族がよく本を読んでもくれたという問いに対し、小学校3年生は41.1%、5年生は51%という程度なんです。保護者のほうは84.6%がよく読んだというような認識があるということでございます。その下の6番目のところも、こちらについては小学校のところは21%、中学校15.1%というところですが、こちら保護者のほうが46%というような状況でございます。

裏面のほうで8番、10月1か月に読んだ本の平均冊数のところで、こちらは新聞をよく読むというところのお子さんについては読書の冊数が多いというようなことが見て取れる状況でございます。

それから14番のところ、中学生が小学校の頃に比べて読書冊数が増加した利用といたしましては、7割近くが好きな作家、シリーズ、ジャンルなどに出会ったというところで、本との出会いというのが重要なのかなというところが見て取れます。

簡単ですが、説明は以上でございます。

○竹内教育長 ただいまの説明にご意見、ご質問がありましたら、お願いします。

清水委員、どうぞ。

○清水教育長職務代理者 速報、大変興味深く楽しく拝見したんですけれども、今、館長がおっしゃった6番の家庭での読書環境というところで、上から3つ目と6個目ですね、家族、お母さんとかお父さんが子どもに本を読むということが、この保護者という、今40代前後の方なのかなと思うんだけど、それと、今と比べると大分減っているというのが残念だという思いでいます。

やはり子どもが本を好きになるということとか、それから感性が豊かになるというようなことを考えていくと、もっともっと今の保護者の方たちが本を読んでくれてもいいと思います。

それから12番の読書の動機づけの指導の後ですね、やはり子どもたちは本が好きになったり読みたいという意欲が高まったりしているわけなので、これは武蔵野市の特色の一つなので、ぜひこれからも大事にしていってほしいなと思っています。

最近の子どもたちの感心がある本が出ていて、大変興味深く拝見させていただきました。

以上です。

○竹内教育長 山本委員、どうぞ。

○山本委員 本の名前は伏せますけれども、ある本を読んでいて、とてもいい本だったんですけれども、ごく簡単に言うと、本を読まないと暴走族やテロリストになる確率が高いというようなところに当たって、とてもショックを受けてしまったんですね。読書を進めたり、動機づけをして、子どもたちが読書を好きになるといいな、本を好きになるといいなという活動が、そういう誤りを犯さないでいることはとても大切なんです。

本はたくさん読むことだけに価値があるわけではなくて、読み通すことだけが読書ではないというようなあたりのことも研究すべきだと考えています。

それから、読書をすることによって、人は教養を身につけていくわけですが、教養というものは一体何だろうかということも一方では研究されるべきでもあると思います。それで教養がある人が、教養があっても恐ろしい罪を犯した過去みたいなものはたくさんあるわけですので。

図書館の活動として、私が一つ、ここを大切にしていきたいと思うのは、子どもたちが借りたい本を目指してまっしぐらに進み、その本だけを借りて帰っていくというのではなくて、図書館をうろつくというようなことを勧めてあげたいなという思いがあり

ます。

それで、昨年12月3日から12月18日の武蔵野市議会会議録を珍しくずっと全部読んでみても、ここで宮代議員のご意見で、確かに読書活動は私も大事だと思っていますし、ある意味、読解力が落ちていることは問題にするべきだと言われながら、だけど、本を読めと言われ嫌になる子どもたちがいるということも言われていました。私も確かにそうだと思う、余り本を好きでない子どものこともちゃんと考えていく必要があるなということを感じています。朝読書のときに、みんなどんな気持ちでそれに向き合っているのかな、本当の気持ちはどうなのかなというようなこと。本を読むことはいいことだということが大前提にありすぎることで、実は苦しんでいる——苦しんでいるというか、嫌になっちゃうなと思っている子どももいるのではないかなということ。少し複雑な視点というか、そこからはみ出しがちな子どもについての認識も深めていきたいという考えが私にはあります。

以上です。

○竹内教育長 図書館長。

○鎌田図書館長 ご意見をいただいたようなところも踏まえて、策定のほうを進めてまいりたいと思います。

○竹内教育長 ちょっと確認したいんですが、この読書の状況調査については、クロス集計とか、前回の計画のときもたしか実態調査をしましたよね。それとの比較とかいうのは今後されるんですか。

図書館長。

○鎌田図書館長 クロス集計について言えば、最終的な報告書のほうにはもう少し入れたいと思います。リクエストがあれば少し対応ができるようなことをお願いしていこうかなと思っております。

前回の比較については、同じような質問項目は余りないところもあるので、難しいところもあるかもしれませんが、比較できる部分は比較をして用意をしたいと思います。

○竹内教育長 渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 私も清水委員と一緒に、楽しく拝見したのですが、少し気になるところを申し上げます。まず一つは、対象者を明確にしてほしかったということです。これは各学校1クラスずつというお話だったのですが、そういうフェースシートを掲載しておく方が良いと思います。

それに対して、保護者もアンケートを取っているのですが、子どもと保護者との関係がもう少し明確に分かるとよかったと思います。そうすると、先ほどの6番の話で、保護者は話していたつもりなのだけれども、子どもはそれほど受け取っていなかったと、そういうことが対応して分かるので。

私が気になったのは5番のインターネットで調べることがとても増えていることです。これはしようがないのかなと思うのですが、インターネットの情報というのは正しいか正しくないかということ进行判定するのは子どもには難しいのです。正しくないことを書いてあったりすることもあるので、きちんとした本などを見て、根拠のある内容をデータとして調べ学習をしてほしいということも委員会で言及していただくと思います。

14番、読書冊数の増加理由についても、こちらでは冊数が増えてほしいなと思っているわけですので、この情報を大切に、どうしたら本に親しんでもらえる子どもたちが増えるか、その辺が今後の委員会の活動の中で大事になると思っています。ぜひ、環境の整え方、行きやすい学校図書館にすることを考える。このデータから見ると、市の図書館の認知度は高いので結構来てくれている子どもたちも多いのですが、このデータから見ると。もっともっと図書館を利用していただけるといいと思いますので、ぜひ検討していただきたいと思っています。

○竹内教育長 ほかはよろしいですか。

小出委員。

○小出委員 一つだけ最後に。今、渡邊委員が言いました14番の結果で、1番、2番が好きな作家、ジャンル、シリーズに出会った、本の面白さに気がついた。これは楽しくないといけないという、これは結果なのかなと思っています。やはりつらい読書じゃなくて、つまらなかったら一回違うのを考えてごらんというのも手だし、やはり読書が楽しいということをお願いしたい、何かきっかけが出ているなという気がいたしました。それだけです。

○渡邊委員 ついでにいうと、3月は時間があるので、読む機会を増やしていただければいいですね。図書館は閉まってしまうんですが、家であれば、本屋さんには開いていますから、そういう指導のほうもよろしくお願ひしたいと思っています。

○竹内教育長 学校図書館は開けるんでしたっけ。

○福島教育部長 学童には対応しますけれども、自宅にいるというのが前提ですので。

○竹内教育長 よろしいですか。

この報告事項につきましては了承されたものといたします。

◎その他

○竹内教育長 次にその他に入ります。その他として何かありますか。

○渡邊教育企画課長 特にございません。

○竹内教育長 それでは、これをもちまして本日の公開部分の議事については終了いたしました。

次回の教育委員会定例会は、令和2年4月8日、水曜日、午前10時から開催いたしますので、よろしくお願いいたします。

午後0時10分 公開部分議事終了